

文章を書く際のテクニック

赤石維衆
技術士(総合技術監理、衛生工学、建設)

ここで記載することは文章を記載する際のキモなので、是非熟読されたい。
(コアなところです)

1. 主語＋述語(動詞)を明記すること。評価を入れること。

例) ①フラッシュ放流できれいになったので改善した。

②フラッシュ放流で水質がきれいになったので改善したといえる。

③フラッシュ放流でBODは放流前の 10mg/L だったのが 2mg/L と低下。

上記の 3 例は良くないケースです。何故だめか分かりますか？

①は主語がないので×です。本人は分かっている、採点者も何となく分かっている、迷うので減点になります。②は主語が水質がと広い意味すぎて、技術士ならもっと具体的な項目を挙げるべきです。また①②に共通するのはきれいという、中小表現で、改善した客観表現がありません。技術士らしくありません。

③は上記①②を大幅に改善していますが、評価がありません。やはり、改善という評価は不可欠ですし、水質が改善しても住民はびんと来ないため、見た目や臭気についてもいれたほうがいいです。また、③は体言止めという比較的高度テクニックなので、余りお勧めしません。

正しくは、

フラッシュ放流でBODは放流前の 10mg/L だったのが 2mg/L と低下し水質が改善したため、見た目や臭気も改善している。か、

フラッシュ放流でBODは放流前の 10mg/L だったのが 2mg/L と低下し水質が改善し、見た目・臭気も改善。

2. 箇条書き

これは便利なテクニックです。下記に述べるように内容が同一レベルなら、箇条書きにして見やすくすべきです。採点者にだらだら文章を読ませるべきではありません。

(よくない例) フラッシュ放流を筑後川に行った。水質は BOD が 10mg/L が 2mg/L になって、見た目が若干茶色から透明になった。その結果、透視度は 20cm から 70cm に向上した。SS は 30mg/L が 15mg/L になっていた。粒形分布をすると、今まで、ウオッシュロードが砂礫分内で 50% も占めていたのに 15% 以下になって、景観改善に寄与した。

(箇条書き例)

フラッシュ放流を筑後川に行い、以下の通り水質などに改善が見られた。

① BOD が 10mg/L が 2mg/L に低下⇒見た目が若干茶色が透明と改善。

② 透視度が 20cm から 70cm に大幅上昇⇒見た目が大幅に改善し観光に大きく寄与

③ SS は 30mg/L が 15mg/L

④ 粒形分布でウオッシュロード分が 50% から 15% ⇒上記②③を補足

3、同一レベルの見分け方

折角箇条書き使っているのに色々なレベルが混在してもったいない

(良くない例)

- ①〇月〇日にフラッシュ放流を実施した。
- ②測定 of 自動化のため濁度計を入れた。
- ③SS は SS は 30mg/L が 15mg/L になっていた。
- ④濁度と SS の相関をとるため、定期的に採水し SS 分析をした。
- ⑤見た目が改善して観光に寄与した。

何故良くないかお分かりですか。①は概要、②と④はメソッド、③と⑤は結論ですね。これらは分けて書くべきで、同一レベルとは言えません。

4、文字について

以下の注意点は意外に盲点です。

- ①リットルをℓでかいたりlで書く人がいますが、字が汚いと分からないし、誤解することもあるので、Lの方がいい。
- ②なるべく横文字は少なく
上記の私の②と④はメソッド は良くありませんね。メソッドは方法とすべきでした。
- ③単語はなるべく漢字単語を使いましょう
概ねこの話はこのように決まりました。
⇒概論はこのように結論づけました。
- ④難しすぎる比喻や単語は避けましょう
屋上に屋を架すという⇒重複している
センサーの動作性は、メンテ者の掌中にある⇒センサーの動作性はメンテ者の能力に依存する。

以上